

「ぶっ飛んだプライド」 列王記下5：1～14

## I 導入部

おはようございます。今日も愛する皆さんと共に礼拝をささげることができますことを感謝致します。台風の影響で金曜日は雨風がひどい状態でした。東北や北陸では台風の影響で40度を超える温度となり、関東や関東と同じような気温で、東北の方々も、その暑さのゆえに大変だったようです。

先週も暑さの中、お一人おひとりが守られたことだと思います。ようこそ礼拝にお出でになりました。礼拝に出席できることは本当に幸いなことです。神様が一人一人に触れて下さり、神の言葉で豊かに養って下さり、励まして下さることを信じます。

先週は壮年会と青年会の合同の例会がありました。壮年会の方々が、早朝礼拝や第一礼拝に出席して、その後、そうめんをゆでたり、おにぎりや肉や野菜といったおかずを準備して下さり、50人以上の方々が食事をされたと思います。その後、会堂で塚本先生のメッセージ、全世代を意識しながらの、本当に素晴らしいメッセージでした。録音できなかったのが残念です。その後、塚本先生にいろいろと質問して、先生の事について知ることができました。とても幸いな時でした。労して下さった壮年会の方々に感謝致します。

昨日から今日にかけては、教会学校のサマーフェスタ（お泊り会）が教会で行われ、プール、スイカ割り、流しそうめんとおにぎり、たこやきやミニドッグの食事、そして賛美と聖書のお話し、牧師と個人のお話しなど、いろいろなプログラムがありました。夏休みの最後のプログラムでした。教会学校の先生方やヘルパーの方々に感謝致します。また、お祈り下さった皆さんにも感謝致します。

7月から始まりました夏限定の早朝礼拝も今日で最後でした。礼拝後は、子どもたちと共に朝食の楽しいひと時を持ちました。去年よりも多くの方々が早朝礼拝に出席して下さいました。朝の早い時間、40分の礼拝でしたが、本当に感謝でした。毎週、市原典子姉が奏楽して下さい、早朝、第一、第二礼拝と連ちゃんの奏楽の奉仕の時もあり、お疲れだったと思います。感謝します。来年も、行いたいと思いますので、ぜひ出席下さい。

さて、今日は列王記下5章1節から14節を通して、「ぶっ飛んだプライド」という題でお話し致します。

## II 本論部

### 一、イエス様を信じる信仰は力です

アラムの軍司令官ナアマンは、アラムの王に重んじられ気に入られていました。新改訳聖書では、「尊敬されていた」とあります。「主がかつて彼を用いてアラムに勝利を与えられたからである。」と1節にあります。神様は異教徒であるナアマンを用いてアラムに勝利を与えられた。イスラエルが負けたということです。ナアマンもまた、神様に選ばれた者

でした。神様の選びの器の一人であったのです。神様は、イスラエル人だけを選んでみ業を行うのではありません。たとえ、イスラエルの敵国の者であっても用いられるのです。クリスチャンだけを用いるのではなく、ノンクリスチャンさえをも用いられるのです。

そのようにアラムの王にも用いられ、神様に選ばれて用いられたナアマンは、「**勇士であったが、重い皮膚病を患っていた。**」(1節)とあるように、神様の憐れみを必要としていた人物でした。私たちも同じように、神様の憐れみを必要とする者です。神様の憐れみを必要としない人は一人もおりません。特に、重い皮膚病という病いの中にあつた、ナアマンには神様の深い憐れみが、助けが必要でした。ナアマンに対する神様の憐れみの準備はすでに備えられていたのです。

イスラエルとの戦いで勝利して、イスラエル地から捕虜として連れて来られていた少女が、ナアマンの妻に仕えていたということです。何人もの捕虜がいたでしょう。そして、いろいろな人に仕えていたでしょう。この少女が、ナアマンの妻に仕えていたことは、神様の憐れみ、神様の導きだったのです。

私たちもナアマンのように、病気になったり、仕事で失敗したり、生活の中で苦しみや悲しみを経験します。どうして、私に不幸が及ぶのか、と自問自答したり、うまくいっている人をうらやんだり、神様に文句を言うてしまうことがあるでしょう。しかし、神様の憐れみ、恵みは私たちのそばに備えられているのです。そして、神様はみ業を行われるのです。

彼女の言葉がナアマンに大きな影響を与えます。「**少女は女主人に言った。「御主人様がサマリアの預言者のところにおいでになれば、その重い皮膚病をいやしてもらえますでしょうに。」**」(3節) それはほらでも嘘でもありません。彼女が信じている神様、預言者がナアマンの病気を治してくれると信じた発言なのです。信仰告白なのです。

ナアマンの人生は、アラムの王に用いられ、その期待に応え、今の地位まで登りつめて来ました。大きな権力と財力を手にして、満足していた人生に、病気によって、人生が天国から地獄に落とされ、あきらめの人生、みじめな生涯、希望のない人生で、後は死を待つのみというせつない、悲しい人生を送っていた彼に、少女の言葉は、少女の信仰は、ナアマンの悲しい人生に、一条の光が差し込んできたのです。

イスラエルの少女は、地位も権力も、財力も、自由もない者です。捕虜として囚われの身、自分の思い通りの人生を生きることができない。何の力も影響力もないと思われた少女は、ナアマンの悲しみの人生、苦しみの人生に、希望と将来を示したのでした。それは、彼女が神様を信じる信仰でした。私たちが、たとえ捕虜となろうが、牢獄に捕らえられようと、人生の困難や苦しみに遭遇しようとも、神様を信じる信仰は失われないのです。どのような環境も、神様を信じる信仰を奪うことはできないのです。私たちは、小さく、弱い者ですが、私たちの信仰は大きな影響を与えることができるのです。

「**わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちから引き離すことはできないのです。**」(ローマの信徒への手紙 8:38-39)

## 二、自分の考えと神の言葉の挑戦

ナアマンは少女の言葉を受けてすぐに行動に移します。アラムの王に、そのことを伝え、イスラエルの預言者の所へ行く許可をもらいます。アラムの王は、イスラエルの王に手紙を書いてくれるとのこと。アラムの王にとっても、ナアマンの病気が治れば、大きな喜び、力となるからです。

ナアマンは、アラム王の手紙を持ち、銀10キカル（340キロ）と金6千シェケル（68キロ）、着替えの服10着を携えてイスラエルの地に、イスラエルの王に元に旅立ったのです。

アラムの王からすれば、少女の言葉によると、ナアマンの病気を治せるほどの人物ですから、当然、王室に召し抱えられて、王の側近におるべき人と考えたのでしょう。ですから、イスラエルの王にナアマンの病気を治してほしいという手紙を書いたのです。驚いたのは、イスラエルの王でした。手紙を読んだ王は、そんな病気を治せるはずがない。この手紙は言いがかりで、無茶ぶりで、戦いをするつもりだ。そのような意図があると思い、恐れて、悲しみと嘆きの表現として、王は衣を裂いたのです。

王が衣を裂いたことを聞いた預言者エリシャは、ナアマンを自分の所によこすようにと進言します。そして、「彼はイスラエルに預言者がいることを知るでしょう。」(8節)というのです。

ナアマンは、数頭の馬と共に戦車に乗りエリシャの元に来ました。ナアマンは、エリシャの家に来る道すがら、自分が重い皮膚病になって苦しんで来たこと、どんなにみじめであったのか、誰も自分の気持ちをわからない。最高司令官の職も退き、希望と将来を失い、ただ死ぬのを待つだけという人生に終止符を打てる。預言者は、どのようにして自分の病気を治すのか。幹部に厳かに手を置いて、祈ってくれるのだろう。重い病気でも自分はアラムの国の総司令官、そのことを覚えてうやまってくれるだろう。ナアマンは、その癒しの方法に期待しつつ、エリシャの家の前に立ちました。

ところが、彼の期待に反して、預言者は自分の顔を見せるどころか、挨拶もしないで、使いをよこして、「ヨルダン川に行って七度身を洗いなさい。そうすれば、あなたの体は元に戻り、清くなります。」(10節)という言葉だけを伝えただけでした。ナアマンは、烈火のごとく怒りました。エリシャの取った態度が、顔も見せず、挨拶もなし、そして、言葉を伝えただけ。こんな無礼な事はない。川で洗えばいいのなら、自分の国の川でいいじゃないか。ナアマンは、異教の世界に生きており、魔術的なものに慣れ親しんでいる。預言者が出て来て、なにかまじないをすとか、祈るとか。預言者らしい宗教的なしぐさを何もしていないなんてバカにしているのか。あれでも預言者か。ただ言葉だけの伝達には納得がいかなかったのです。はるばるイスラエルまで来た甲斐がない。無駄足だった。なんてこった。彼は、期待が大きかっただけに、言葉だけの伝達にがっかりしたのです。そして、彼は去って行ったのです。

私たちも、神様に対して、教会に対して、牧師や信徒の方々に対して、自分の思い通りではなくて、期待していたのとは違う導きや結果になるとがっかりしたり、怒ったり、がっかりすることがあるのではないのでしょうか。しかし、そこにこそ、神様からの導き、教

え、真理が示されているように思うのです。

### 三、失望に終わらない神の言葉を信じる

しかし、そこにも神様の備えられた人がいました。ナアマンの家来です。ナアマンと同じように、彼の上司の癒しを願っていた人物です。13節を共に読みましょう。「しかし、彼の家来たちが近づいて来ていさめた。「わが父よ、あの預言者が大変なことをあなたに命じたとしても、あなたはそれとおりにさしたにちがいありません。あの預言者は、『身を洗え、そうすれば清くなる』と言っただけではありませんか。』」

エリシャは、困難な事を示したのではありません。子どもでも、誰でもできることを示しました。かえって、あまりにも簡単で、単純な言葉、命令だったので受け入れられなかったのです。神様は、聖書を通して、「キリストを信じれば、救われる」と語ります。あまりにも、簡単、単純な事。長い人生、罪にまみれた自分の罪が、キリストを信じたぐらいで、赦される。信じただけで救われるなんてあり得ない。そのように感じる人が多くいることでしょう。あなたもそうかも知れません。

「ヨルダン川に行って七度身を洗いなさい。そうすれば、あなたの体は元に戻り、清くなります。」というエリシャの言葉を単純に信じて、その通りに行動することで、彼の病いを癒そうとする神様のお心、思いを伝える言葉でした。それは、神様の言葉でした。

エリシャによって示された神様の言葉を信じる信仰が求められたのです。聞くだけではなく、その言葉に従ってやってみる。トライする。ヨルダン川に行く。川の中に入り、7度身を洗う。実に、簡単で、単純な行為でした。1度や2度ではなく、7度繰り返すという単純な行為、素直な信仰、信じて、疑わない信仰が求められたのです。

エリシャの言葉に憤慨したナアマンは、家来の説得を受けて、ヨルダン川に向かいます。そして、川の中に入り1度、2度、3度と身を洗います。少しずつでも良くなるならば、良い兆しが見えるならば、疑いの心も消えて、信じて行けるでしょう。けれども、何の変化もないと、疑いの心が芽生えるのです。こんなことをしても無駄だ。本当に大丈夫か。そのような不信仰が沸き起こるのです。そのように沸き起こる思いを断ち切って、4度、5度、6度と繰り返す。7度身を洗うということは、7度繰り返すということは、エリシャの言葉、神様の言葉を本当に信じていないとできない事なのです。その内容が単純であればあるほど、簡単であればあるほど、本当に信じないとできないことなのです。

ナアマンは、家来の応援を受けて、7度身を洗ったのです。するとどうでしょう。「彼の体は元に戻り、小さい子供の体のようになり、清くなった。」(14節)と聖書は語るのです。

信じられない事ですが、預言者の言葉の通りに、本当に信じて従って行動したら、病気の体は、元に戻り、清くなったのです。自分が期待し、望む通りになったのです。イスラエルの捕虜の少女の言った通りになったのです。家来の言うとおりに、大変な、困難な事を言われたら努力した。必死になったであろう。しかし、ヨルダン川で7度身を洗え、そうすれば清くなる。その通りにしたら清くなった。宗教的な儀式も、それらしいまじないもなく、大げさな目に見える何かはなくても、預言者を通して語られた神様の言葉に従っただけで、従った結果、本当に癒された。元気になった。元の通りになったのです。「ありが

とうございます。ありがとうございます。」という言葉しか出てこなかったでしょう。彼はエリシャの元に戻り、15節の言葉ですが、「イスラエルのほか、この世界のどこにも神はおられないことが分かりました。」と信仰を告白したのです。彼のプライドがぶっ飛んだ瞬間でした。

私たちも、祈るだけで、信じるだけで救われる。神様のみ業をなされるという聖書の言葉を信じられないことがあります。自分自身が苦しければ苦しいほど、大変な状況にあるほど、祈ること、聖書の言葉を読むこと、イエス様を信じること、礼拝を守ることなど、意味がないかのように感じてしまうことがあるかも知れません。けれども、神様は私たち一人ひとりを愛しておられます。愛しておられるので、私たちの罪を赦すために、イエス様を人として人間の世界に送り、私たちの罪の身代わりに、罪のないお方、神のであるお方を十字架につけて裁かれたのです。十字架で流されたイエス様の血と十字架でささげられたイエス様の死、その体によって、罪ある私たちの罪が赦され、魂が救われるのです。イエス様は死んでよみがえられることにより、私たちに永遠の命、天国の望みを与えられたのです。このことを私たちは、単純に信じたいと思うのです。

### Ⅲ 結論部

ナアマンには、ナアマンなりのプライドがありました。私たちには、私たちのプライドがあるでしょう。プライドは、何の良きものも与えません。神様よりも自分を高く置くという偶像礼拝に等しいのかも知れません。私たちは、そんなプライドを振りかざすのではなく、素直になって神様を信頼したいと思うのです。

私たちは、人の言葉ではなく、現実ではなく、聖書の言葉、神様の言葉を素直に信じて、神様を信じたいと思うのです。今、将来の見えない希望のない所に置かれているかも知れません。でも、神様はナアマンに、少女や家来を置き、導かれたように、あなたのそばにも助けとなる人を置いておられるのです。そして、あなたが神様の言葉を本当に信じて従う時に、驚くべき神様のみ業を見させて下さるのです。そのことを信じつつ、この週もイエス様と共に歩んでまいりましょう。